

経営情報科が設立されて16年、およそ1600人の方々が、本学科で学んだこととなります。教育は長期的な視点で考えるべきものと言われていますが、今、その結果を問われる時期なのかもしれません。経営情報科は先の時代を担う人材を育成することが目的でつくられました。常に世の中を一步リードすることを念頭に、教育の内容や方法を改善してきました。設立当初は、まだ社会の情報化が始まったばかりで、パソコンを操作できる人は大変少なく、その意味では貴重な情報教育の場でありました。けれども、情報化の進展は著しく、正直なところ戸惑うこともありましたが、皆様が学んだ時期それぞれに、その時の目標は達成してきたと考えています。その間、大西時雄先生、渡辺利夫先生、板垣毅先生、井口伸先生がお亡くなりになり、悲しい時期もありました。しかし、現在では、これまでで最も充実した授業内容となっており、その成果の一端として、学生の皆さんにこの小冊子を作成していただきました。今の経営情報科生には何ができるのかをOGの方々に知って頂き、あらためて経営情報科での生活を思い起こして、それを評価して頂きたいと思っています。ここで学んだこと体験したことは、必ずものの考え方の土台になっていることと思います。

経営情報科は本年3月をもって、教育活動に幕を引くこととなります。それはとても寂しいことではありますが、私たち教員は助手の方々からの暖かいサポートもあって、常に学生の皆さんに精一杯の教育をしてきましたので、その意味では満足もしています。皆様一人一人のことを心にとどめ、ずっと応援し続けますので、これからも経営情報科の卒業生であることを心の支えとして、自信をもってそれぞれの目指す方向へ歩んで頂きたいと願っています。

なお、経営情報科専任の山下先生は法学部、栄本先生、折橋先生、松下先生と私が人間環境学部にも所属しています。

(経営情報科 科長 金子義幸)

1991年3月、経営情報科第3期生として卒業し、同年4月経営情報科副手として就職いたしました。初年度は、肩に力が入り過ぎ、空回りする私を、先生方、先輩、そして学生たちに支えられ、無事1年目をクリアすることが出来ました。

早いもので、あれから12年が経ちました。経営情報科は、何よりも“学生のために”をモットーとして、新しい“情報”・“技術”・“加付価値”・“方針”などをいち早く取り入れようと、先生方をはじめ、スタッフ一同、日々努力して参りました。私自身、同じ科で仕事をしながら、毎年のように新しい仕事にチャレンジし、沢山のことを学ぶ機会を与えて頂きました。そして、何よりも楽しかったことは、学生たちとの触れ合いでした。演習室は、学生の生の声をダイレクトに聞くことのできる場所です。私は、同じ科の少しだけ(?)先輩として、アドバイスなどをしながら、学生と一緒に悩んだり、笑ったりすることが本当に楽しい時間でした。また、学生からも沢山のことを学ばせていただきました。

2003年3月、経営情報科は発展的終わりを遂げます。この科で学んだ全てのことを、私自身の大切な財産として、来る未来へ立ち向かう大きな力となって行くことと確信しております。

今、お世話になった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(経営情報演習室 醍醐辰子)

私は経営情報科設置(昭和62年4月)から演習室に勤務し、11年間(平成10年3月まで)を経て、現在は教務課に勤務しております。

当初は、学生との年齢の差もほとんどなく友達感覚で接していたのを懐かしく思います。また他科にはない、経営情報科ならではのバイタリティあふれた授業や、教員と学生との関わり方に羨ましく感じたものでした。私も、そんな学生達の頑張っている姿に刺激を受けて、資格等を取ったりと勉学に励み、今では仕事、家事、育児にと三役をこなして(?)おります。

今、「女性が働く」のがあたりまえになっている時代です。みなさんがおおいに活躍されることを期待しております。頑張ってください。

(経営情報演習室 / 現在 教務課 金子美穂)



## 編集後記

～ 科長・演習室・OGより ～

私は経営情報科の4期生として2年間の楽しい学生生活を過ごし、卒業後関東学院に就職しました。

経営情報科での学生生活は、毎日がとても充実してあっという間でした。先生方の熱心な指導、一人一人にとっても親身になって接して下さったこと、とても感謝しています。

また先生方や友人との出会いは、その後の私の人生を大きく支えてくれています。

私たちがここで学んだことや絆を大切に、これからも自分を磨き、いつまでも輝いていきたいですね。

(第4期生 須藤園子)

入学当時、経営情報科=勉強する科という感じでした。でも、卒業して教務課の勤務になり、全学科を見渡す立場になった今は、それが経営情報科の特徴だったのだと思えるようになりました。リトリートに向かうバスの中で、他の学科はカラオケしていたのに講演のテープを聞いて勉強していたことも、今となってはいい思い出です。

卒業して10年、ずっと近くで見えてきた短大が幕を閉じます。校舎の中も少しずつ変わっていますが、卒業後に学校に来ていない卒業生達の中では短大は当時のままのはず。忘れないでほしいなあ……。

(第5期生 中村由香)

企画・編集委員

第15期生

大川麻衣 甲斐友香 高橋真由美 羽芝絃子

早川久美子 福井玲子

卒業生・演習室職員

須藤園子(旧姓:田口 4期生) 中村由香(旧姓:高橋 5期生)

金子美穂(旧姓:菊池) 醍醐辰子(旧姓:金井 3期生)

協力

金子義幸 松下倫子 山下輝彦 増尾明彦

Generation Gap ～ 経営情報科だったあなたへ ～

2003年3月1日 印刷

編集 / 発行者 関東学院女子短期大学 経営情報科 15期生

発行所 関東学院女子短期大学 経営情報科

〒236-8503 横浜市金沢区六浦東 1-50-1

印刷所 山陽印刷 株式会社



# Generation Gap

～ 経営情報科だったあなたへ ～

## 「今」 ～ 恩師からあなたへ ～

この頁を担当することになった、私たち(卒業生・演習室)は、まずはじめに、経営情報科で大変お世話になった恩師である先生方のことを思い浮かべました。現在、“不況”、“凶悪犯罪”などが叫ばれ、不安定な世の中となっており、短大生の就職活動も例外ではなく、年を追う毎に厳しさを増しております。また、卒業生の皆様方も厳しい現実の中で、いろいろな形で闘っていらっしゃると思います。そんな中、恩師である先生方にご協力いただき、『“今”何に興味を持たれ、楽しんでいらっしゃるか』という質問に対して、多数のメッセージを寄せていただきました。

このメッセージが、皆様にとって、勇気と元気の源となっただけなら、、、、という想いを込めて、この頁を作成いたしました。また、私たち自身、先生方のメッセージを拝見させていただき、沢山のパワーを充電し、これからの人生の良き指針となりました。

この冊子のためにご協力いただきました、諸先生方には、この場をお借りいたしまして、心より深く感謝申し上げます。(お名前の五十音順にて掲載しております)

新井信一先生(財務管理論)

2003年1月9日。今、私が担当している短期大学の授業がすべて終了しました。最後は経営情報科の授業でした。採点までは気を抜けませんが、今、ほっとしたような、寂しいような複雑な気持ちです。女性だけの授業はこれで最後です。今まで16年にわたりゼミナールや財務管理論で経営情報科の多くの学生に出会うことができました。とても楽しい時間を過ごせました。今、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

岩澤孝雄先生(マーケティング論)

1938年生まれ、新年が明けて65歳、通称第二の人生をどう楽しもうか、今この課題に取り組んでいる。現在、二つの新しいビジネス・モデル開発を手がけている。果たしてどうなるか、その成果は分からないが、異分野の専門家との交流機会がなにより楽しみだ。肝心のモデル開発を忘れそうな工夫だ。二つのうち一つでも当てれば新しいビジネスが立ち上がることになるが、どんなものだろうか。しばらくの間楽しめそう。

栄本和子先生(英語I)

昔からジェットコースター以外の乗物は全て好きだったが、ここ数年楽しんでいるのは欧米の列車である。ヨーロッパの田園風景を楽しめる列車もいいが、今一番気に入っているのはアメリカ大陸横断鉄道アムトラックである。新幹線のような清潔さやスマートさはないが、ステップを昇って入る気分は、そのままのレベルで車内に入れる日本の鉄道と異なって、いかにも「走る部屋」に乗り込むという感じがして何だか浮き浮きする。

大越公平先生(伝承文化論) ～今、そして来年度へ～

私は今、文学部比較文化学科に所属し、研究室は釜利谷校舎にあります。来年度から「ゼミナールI」がスタートします。かつて担当した「経営情報セミナー」「地域文化論(伝承文化論)」や共通科目の「総合教養講座」での経験を活かしながら、年中行事をフィールドワークするユニークなゼミナールにしようと思っています。短大時代の成果である「今」をこれからの活躍のために活かしましょう。近況をお知らせください。



**岡本教佳先生 (情報処理演習Ⅱ)**

今、苦労しています。私の所属する工学部では、社会的な情勢から新しく生まれ変わろうと準備をしており、そのひとつがネットワーク、通信、各種メディア表現等の技術が融合した情報系の新学科を作ることです。関連する最新技術について教えることも大事ですが、学生にとって魅力ある学科にしなければなりません。経営情報科のように新学科の卒業生が社会で活躍して貰えるようになれば何年かして苦労が楽しみが変わると思っています。

**折橋徹彦先生 (産業心理学)**

去年で定年になりました。昔、1967年に、関東学院に就職する前にアメリカの留学から帰るときに妻と世界一周の貧乏旅行をしました。それからもう35年も経ちます。70年代には短大と文学部の学生と一緒に出かけたヨーロッパ旅行を皮切りに、アフガニスタンやイランそしてトルコなどいろいろな国に旅行をしました。定年になって、この正月に昔の友達に会いながらアメリカ、ヨーロッパ、インド、タイそして中国と楽しい旅をしました。世界はびっくりするほどのスピードで変化していました。若い人にはとても面白い時代だと思いました。

**金子義幸先生 (労務管理論)**

私がいま関心をもっていることは、社会変化の代名詞のように言われる「高齢化」です。大変深刻でもあり、誰でも経験するエイジングにあって、どうすれば社会的にも経済的にも自立した暮らしができるのでしょうか。その条件は何でしょうか。自立とは「自ら選択できること」だと考えます。何歳になっても、自分で将来を選択することが人間の基本でしょう。「高齢化と選択」をキーワードにあるべき社会を考えています。

**小島明先生 (マシ・コミュニケーション)**

金沢八景の方へ足を向けなくなってもう久しくなります。NHKと大学講師の勤務を終え、今は声楽(テノール)の勉強にはげんでいます。歌の本場であるイタリアに4年連続して行って、イタリア人の先生について本格的なレッスンを受け、歌劇の中のアリアや歌曲、カンツォーネ等を歌っています。歌うということは自分の気持ちを聞く人に伝える一種の芸術的なコミュニケーション活動ですが、自分の体が楽器ですので、常に健康を心がけています。

**小林正彬先生 (経営史)**

15年間「経営史」担当、ありがとう。10冊目の『三菱の経営多角化』完成後は、専門の絵に戻りたい。東大で「経博」とったのに「軽薄」といわれている。しかも、国外でスケッチする悪いくせがあり、アジア・アフリカ以外は全部行った。年末年始もポルトガル再訪、町田市立国際版画美術館で1月28日～2月2日、銅版画など5点出品する。例えば、虹の美しいスコットランドで家を持ち、毎日絵を置き、ジョギングを楽しむのが理想です。

**齋藤直機先生 (経営学概論)**

「今、私は、Art BlakeyのO' Tindeという1950年代半ばに録音されたmodern jazzのCDを聴いています。」聴いていると、「ひらけ、らけ、らけ、どーあ」というchantが聴こえてきます。スワヒリ語を使って居る筈の、Art Blakeyというdrummerによるこのchantが、何を意味するか、それを知りたく思っているところです。現在の勤務先は、「私立北海道情報大学経営情報学部」、担当は「経営学総論」ほかです。

**嶋根政充先生 (企業論)**

音楽鑑賞が私の趣味のひとつですが、今興味を持っていることは、「音楽と時代性」についてです。社会の時代状況によって様々な名曲が生まれ、人々に愛されるようになります。では、浜崎あゆみの歌を口ずさむ今の若者世代が、高齢者になると演歌を好む現代の高齢者層とは異なった洗練された世代になっているのでしょうか。やはりクラシックではなくロックを愛好するのでしょうか。ドライブで音楽を流しながらそんなことを考えています。

**清水正三郎先生 (マシ・コミュニケーション)**

やっと仕事から解放されてこれから夫婦で世界旅行にと思っていたら、妻の癌は治らず、近場のバリ島で楽しんで日本に帰国したその日の夕方、現地で爆発事件が起き一日違いでした。ほっとしていたら今度は旧制一高の理科で一緒だった小柴さんがノーベル賞ということで仲間が集まって心浮きうき、その一方でかつて滞在したヨルダン国の隣りのイスラエル・パレスチナとイラクの問題では心が沈み、今でも「今何をするか」を考え中です。

**杉村倫代先生 (プログラミング演習) ~今、楽しんでいること~**

今、楽しんでいることといえば、ピアノと猫。ピアノを4歳で始めた頃は、怖い先生も厳しい練習も苦痛でしたが、20歳頃から漸く楽しめるようになりました。最近の夢は、ジャズナンバーで他の楽器とスイングすること。我が家の猫、梅太郎は無芸で6.4Kgの大食漢。しかし「目千両」の器量よし。仕事に疲れた私は、言葉では表せない心の交流を毎日楽しんでいます。卒業生の皆さんも、どんな時も楽しく元気に前進してまいりましょう。

**鈴木登紀男先生 (情報処理概論)**

短大を辞めてから、毎朝NHKラジオでドイツ語の勉強を始め、現在も続けています。1992年からアマチュア無線を始めました。その日の地球を取り巻く「電離層」のご機嫌如何で、アジア、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、南米と通信が出来、わくわく致します。インターネットで文献を探し、地域の仲間にお話ししたり、多くの仲間とメールの交換をし、また同期の名簿管理を引き受け、クラス会の開催などの世話をしております。

**竹内寿一郎先生 (情報処理演習Ⅲ)**

経営情報科の設立時から、当時の科長山下先生、次に井口先生、小林先生、金子先生と四代もの科長に仕え、どうしたら自分より優れているパートナーを見つけることができるか、私なりに有益な？助言をしてきたつもりです。要は飽きっぽい人を相手に選んでは駄目だということでしたよね。このことは彼に集中力と誠実さを求めることになるわけですが、考えてみると求めることよりも自分はどうなのかを、振り返ってみることが一番大切なのではないでしょうか。

**立花靖弘先生 (情報処理演習Ⅱ)**

いま楽しんでいることは3つある。①子供時代に情緒を豊かに発達させる意義→進化心理学の立場から脳の発達を分かり易く話す。(PTAなどの演説で)②子供の自然体験はなぜ重要か→グリーンツーリズム(滞在型農山村の楽しみ) 関係NPO理事としてアドバイス役。③伊豆半島にどうしたら滞在型健康保養空間をつくれるか→静岡県の依頼でコーディネーター。以上、いずれも人間と環境にかかわる領域で主として自治体の要請を受け、それを自発的な楽しみにしている。

思い出の場所☆

なった施設や教室・・・  
場所にスポットをあててみました。  
変化はしていますが健在です！



M・M教室2  
3号館 3-205



学科設立当時から授業を担当されている、竹内先生のコンピュータ演習の授業風景です。この教室は空き時間にも利用されています。



チャペル  
5号館 3階



毎年12月に行われている、クリスマス礼拝の風景です。厳かな雰囲気の中行われる礼拝は圧巻です。キリスト教概論の授業では毎週行われている通常礼拝に参加し、レポートも作成しました。







☆今も変わらない  
 学生生活でお世話に  
 今も変わらず多くの学生に利用されている  
 経営情報科の拠点である演習室も

### 図書館

図書館棟・2階～5階



図書館棟として独立しています。レポート提出前やテスト期間は多くの学生が利用しています。また、読書や勉強以外にもAVコーナーでは、過去の名作から最新の話作などのビデオやDVD鑑賞もできます。



### 大教室

(左) 3号館 3-502  
 (下) 1号館 1-505



まさに大学!!といった感じの大教室です。授業以外にも講演会やレクレーションなど大勢集まる時にも使用されます。また、1-505教室は短大最後のGFでアイドルの『ソニンちゃん』のライブステージにもなりました。



#### 田山美智子先生 (体育実技 I)

今、興味を持っていることは「人と動物の共存社会にむけて」というテーマで、現在ペット問題について、他方面の方と出会い勉強させてもらっています。今、楽しんでいることは、加齢と実年齢は違うと思っていますので、日々、チャレンジするという前向きな気持ちでと思っています。その時、その時の“とき”を大事にして、いろんな出会いを楽しんでいます。

#### 橋本政樹先生 (原価計算) ～ラストリゾート～

社会へ出ると、人は誰でも何かを求めて時間に追われる。ふと佇むと、いつの間にか季節は移ろい、時代は変わっている…。そう思うとき、私はラケットを持ち出しては、コートでドタバタやっている。不思議なことに、ゆっくりと時は流れ、懐かしい匂いと青いエナジーが満ちてくるのである。今は昔、明日は今…と云う。これからのライフステージ、皆さんの心の中にも、学生時代の“何か”が生きていくことでしよう。

#### Vigden 中西道子先生 (英会話 II)

「…教授はいつもその瞬間が最も貴重な時なのだ」と教示された。」130年前臨海研究所で、ルイ・アガシー教授の薫陶を受けたD.S.ジョーダン博士は後科学教育界と20世紀の世界平和に多大の貢献をした。何十億年という物事に生涯取り組んだ世界的自然科学者は“今この瞬間が最も貴重な時”と言われました。“今”出版されたばかりの拙著『モースのスケッチブック』P198から。もし興味が湧いたらどうぞ図書館で覗いて見て下さいね。

#### 深野宏之先生 (事務管理論)

“東海道を歩いて京都まで”という目標を立て余暇を利用し、平成11年9月から平成15年1月に完了した。歩くことは体に良いことであるということは誰でも知るところであるが、なかなか実施が難しく長続きもしない。体に気持ちが良い、無理せず、味わいながら歩くことが大切である。街道沿いの歴史や景色、おいしいものを食しながら江戸時代の旅人の足跡をたどることは感動をいっそう深いものとし、今、興味を持ちながら楽しんでいる。

#### 帆苅猛先生 (キリスト教概論) ～思い出をたずさえて～

関東学院女子短期大学が、その五十数年の歴史を閉じ、大学の新しい学部、人間環境学部へと移行しようとしている。一抹のさびしさを禁じ得ない。しかし他方、これまでの短大の伝統が受け継がれ、さらに発展するのだから…とも思う。これまでの短大が大学に誇れるものも沢山ある。そのひとつは、チャペルとパイプオルガンであろう。思い出の短大のチャペルで結婚式を挙げたいという卒業生がいれば喜ばしい限りである。

#### 松下倫子先生 (情報処理演習 I)

相変わらずジュビロ磐田のサポーターを続けています。昨年はW杯年でしたが、私にとっては日本代表の躍進よりもジュビロの完全優勝の方がビッグニュースでした。高原や有力選手が海外や他チームに移籍した今期は大変厳しい状況ですが、オリンピック世代の若手の有望株に期待しています。サッカー以外では古典芸能に関心があり、今は能・狂言と落語の世界を楽しんでいます。サッカーも芸能も、ライブでの一体感が最高の魅力ですね。

#### 矢嶋道文先生 (文化史)

15周年おめでとうございます。今から15年前、初代学科長の山下輝彦先生が経営情報科の1期生を育てるため獅子奮迅していたことを思い出します。15年あっという間ですね。経営情報科の皆さんとは授業でお会いしましたが、思い出は共通科目の教養ゼミ (その年のほとんどが経営情報科生) です。今、私はおよそ15年間かかった本を刊行しようと思っています。お互い石の上にも15年です。新たな出発の上に必ず役立つことでしょう。

#### 山下輝彦先生 (民法)

経営情報科は、1987年に林淳三学長のもと、幼児教育科の先生方の協力、定員50人を振り替えて、難産のすえに産声をあげた。当初、金子美穂 (旧姓：菊池) さんが、経営情報演習室で、若い学生に優しく指導してくれました。現在、卒業生の醍醐辰子 (旧姓：金井) さんが助手になり、後輩の指導に頑張ってくれています。2003年3月経営情報科は、女子教育の目的を達成して卒業します。今、私は小田原校地の法学部にいますので是非遊びに来てください。

#### 山中義昭先生 (情報処理演習 I)

昨年 (2002) 3月に退職、暇になることを心配していましたが、住んでいる杉並区のパソコン指導のボランティアで以前より忙しくしています。短大の皆さんと違い、50-70才の方々なので、手間がかかりますが、それはそれで毎日を楽しんでいます。また、海外旅行には相変わらず飛びまわっています。昨年は家族旅行でパリとスイス、個人の楽しみでは、やみつきRoute66、4,000kmをドライブしました。短大は発展的に閉じて、同窓会活動は続けたいですね。

#### 山本政宏先生 (情報処理演習 II)

いつもながら色々な事に追われています。特に最近は何冊か書かれた仕事が沢山あって、うんうん唸っています。で、ストレス解消かねてまた音楽を聴き始めました。昔から音楽を聴くことは好きだったのですが、なぜか疎遠になっていました。好きなジャンルは特にないですが、自分でピアノやギターで演奏できるのをなんとなく聴いています。でもやっぱり「クラプトンはうまい」「パープルははっきりする」等と、安心できるせいか昔の曲を無意識に選んでいる今日この頃です。

#### 和田成夫先生 (情報処理演習 I)

私が鈴木登紀男先生と「情報処理演習」を担当していた頃から十数年が経ちました。当時のコンピュータ操作はキーボード中心、記憶容量もスピードも今のものと比べ格段に劣り、インターネットも電子メールも携帯電話も普及していませんでした。日頃、学生教育や研究の現場で急速なコンピュータ・情報通信の技術革新を実感しながら、ユビキタス情報化社会到来へ夢を膨らませています。



# New Symbol

# Eternite

since 2002



4階の食堂の風景とメニュー



2階のコンビニ(Salle)



3階のアシストセンター



2階からの風景

3階のセミナールーム



1階の私達のお世話をしてくださった学生課

1階の就職のサポートをしてくださった就職課  
今も変わらず私達の未来へのゲートウェイ  
になっています。

2002年4月に快  
適な学生生活をおく  
るために、多目的な施  
設として、ルツ寮が  
あった場所にエテル  
ニテが造られました。

## 就職課のみなさんからのコメント

私は短大に経営情報科が誕生したときからを知っています。たくさんの方の期待を一身に受け、輝かしく出発した学科です。その輝きは15年経った今も薄れることなく、脈々と受け継がれていますね。就職課の窓口で出会う皆さんは、社会への夢や希望が瞳に満ち溢れていて、それが人事部の方の心を打つのだと思います。それは何よりも先生方や醍醐さん、熊澤さんの愛情があってこそだと思います。社会に出たら是非今度は皆さんが他の方に愛情を分けてあげてください。自由闊達な関東学院魂で世の中を照らす光となれ!(井上さん・関東学院一小さい職員)

就職先が内定している人、そうでない人、進学先が決まっている人、そうでない人…いろいろな人がいても、皆さんにはま

だまだ平等に、様々な未来が待っています。大切なのは自分自身の価値観で未来像を創り、それに向かって努力することです。「努力が報われない」と思うならもっと努力してみてください。人生は「なんとかなる」ものではないのです。自分の進む道は自分で開拓するしかありません。でも、その道の脇や後ろには私たちがいること忘れずに下さいね。私たちはいつでも皆さんを応援する準備を整えて待っていますよ!(西水さん・髪の毛の長いお姉さん!?)

若く初々しい皆さんの旅立ちへの一歩を見つめてきたここ数ヶ月。重く涙しながら開けた扉、とまどうほどあっさりとした扉…そこからが始まりです。扉の先にある夢も大切に、頑張れ!!(渡さん)

就職課が課として発足(朱膳寺・三浦・小山・細井の4名でスタート)し、2年後に経営情報科が設立されました。学生定員は

現在の半数で、学生も就職相談だけでなく日々の出来事を話しによく見えたものです。当時は求人も豊富で学生にとってはよき時代でした。1期生を送り出し早14年の歳月が流れ、改組転換により、短大の終焉を迎えることとなりましたが、関東学院女子短期大学最後の卒業生として誇りと希望を抱いてこれからの人生を邁進して行くことを願っています。(細井さん・就職課唯一の男性)

## 学生課のみなさんからのコメント

私の記憶が正しければ、私が関東学院に就職した年、経営情報科がスタートしました。その後私は大学へ異動してしまいましたが、一番の思い出は故井口先生に簿記をご教授していただいたことです。学生の皆さんといっしょに教室で勉強するのは緊張と気恥ずかしい毎日でした。試験会場でもいっ

しょだったので不合格だったらどうしようと……。結果は無事合格でしたが、あのときいっしょに受験した皆さん、お元気ででしょうか?とても懐かしく思い出されます。(宮崎さん)

長い歴史と伝統に輝いた関東学院女子短期大学は人間環境学部への改組転換により本年度をもちまして終了いたします。

学生の入学から卒業まで学生にかかわる行事などを側面から支えるのが学生課の仕事でありました。特に夏に実施された伝統的な「リトリート」は本学の建学の精神をもとにした宗教行事であり、その中から体験した多くの知識は、卒業後もいつまでも心の奥深く刻まれることと思います。

2年間学び得た勉学を基礎に大いに社会で活躍していただきたく思います。(岩谷さん)

15期生 : 高橋真由美・羽芝絃子・早川久美子・福井玲子